



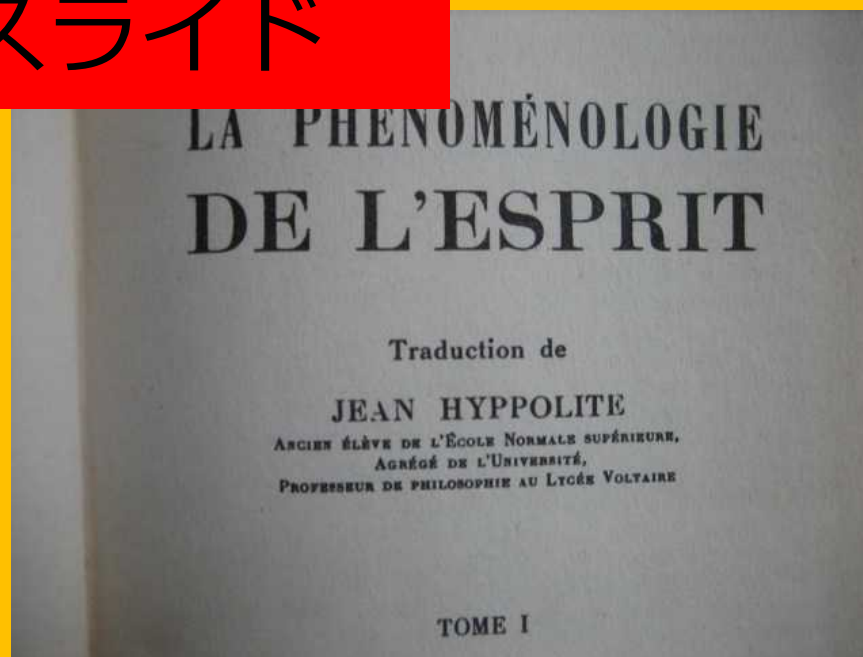
ヘーゲル 精神現象学  
La Phénoménologie de  
l'Esprit Hyppolite 訳

感じる蓋然  
Certitude Sensible 下

仏語翻訳版から  
解く絶対知の追求

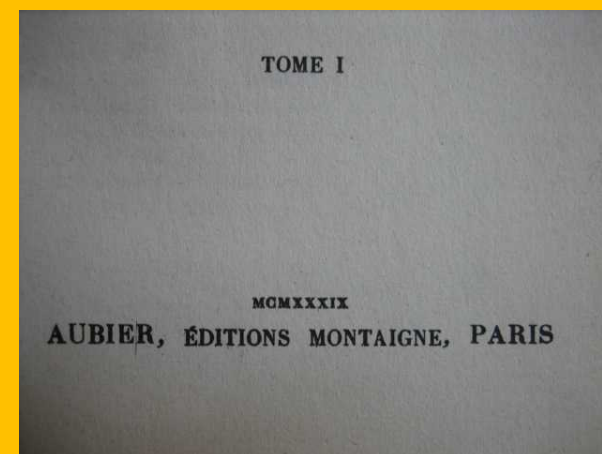
部族民通信 2025年2月

## 前出 参考スライド



### La Phénoménologie d'Esprit精神現象学

Aubier社 Montaigne 版 赤の羊皮装丁全2巻700ページ。中央は内表紙、著者名Jean Hyppoliteの下は略歴、高等師範卒、大学教授資格、リセヴォルテール校哲学教授。  
ローマ数字の出版年は1939年(右)



LA LE CECI CERTITUDE SENSIBLE, ET MA VISÉE DU CECI (感じる蓋然、あるいはこのモノ、そしてこのモノに向ける私の視界) 下

これまでのまとめ；本投稿を通しての鍵語：蓋然、即座、介在、否定—は（上）の冒頭に記した。

鍵語は 1 Certitude sensible感じる蓋然

2 Immédiat即座 Médiation 介在

3 Négation・Affirmation・Détermination否定肯定決定（弁証法）

Certitudeは「あり得るかな、無いかな」の精神作用…」（1月21日投稿のYoutube動画を参照）

本連続投稿（1月21日～全3回）の結語；

モノは実質、それを「見えるままの姿」で捉え、自己内に表象するのは、最も貧弱な真理しか掴めない。モノは実質の即座と、表現である介在に分かれる。

即座は「これはこれ」「今は今」でしかない。

介在を受け「これは木」「今は夜」とモノとしての表現に至る。

その表現は朝になると風化し否定される。

悟性は「感じる蓋然」の精神作用をもって介在と否定、そしてこの繰り返しが「普遍」と理解する（文末にも揭示）。

II部に入る。冒頭の一文：

« La force de sa vérité se trouve donc maintenant dans le moi, dans l'immédiateté de mon voir, de mon entendre » (85頁) . その (certitude) 真実の力は私 (悟性) に宿る。悟性が、見て聞く即時判断、に宿る (関係は逆転した = certitudeが客体だった弁証法以前から、悟性の精神作用になって主体を獲得した = 前回)

II部に入る。冒頭の一文：

« La force de sa vérité se trouve donc maintenant dans le moi, dans l'immédiateté de mon voir, de mon entendre » (85頁) . その (certitude) 真実の力は私 (悟性) に宿る。悟性が、見て聞く即時判断、に宿る (関係は逆転した = certitude が客体だった弁証法以前から、悟性の精神作用になって主体を獲得した = 前回) 。

部族民：先程、判断には不備と否定した即座immédiatetéが再登場する。これを以下に考えたい。即座判断は「貧しい真実」。この「貧しい」意味はモノを固定してしまう、普遍にたどり着かない。しかし精神 (悟性) が「感じる蓋然」を取り込んで後は、モノを見てそこに蓋然 (正しいのか誤りか) の精神作用が発動する。介在が否定され、それが繰り返されるモノ世界を、正しく精神に取り込める。肯定否定の繰り返しが弁証法であり、モノの普遍。かく、真実の力 la force de sa vérité を発揮する。

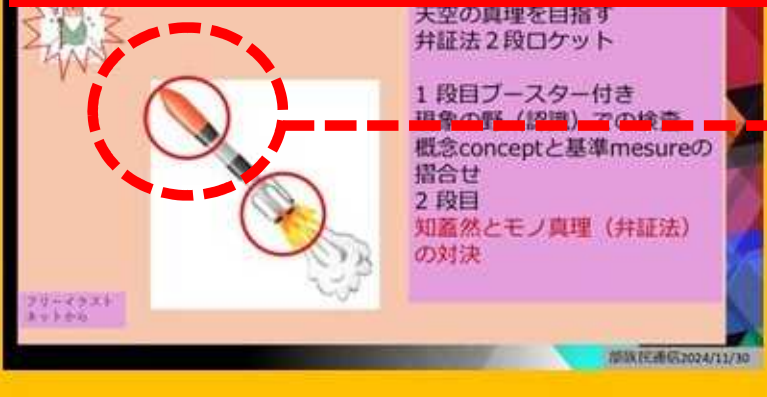
くだけた言い回しに替わる；（原文引用なし）モノ流転を見つめる我、悟性。木を見てここは木と確信し、別の機会に家を見るとここは家となる。mais l'une disparaît dans l'autreそして一の真実はもう一方に吸収される。« la certitude sensible fait en elle-même l'expérience de la même dialectique » (dito)  
（悟性内の）感じる蓋然は（モノ世界と）同じ弁証法を経験する。

くだけた言い回しに替わる；（原文引用なし）モノ流転を見つめる我、悟性。木を見てここは木と確信し、別の機会に家を見るとここは家となる。mais l'une disparaît dans l'autreそして一の真実はもう一方に吸収される。《 la certitude sensible fait en elle-même l'expérience de la même dialectique 》(dito)（悟性内の）感じる蓋然は（モノ世界と）同じ弁証法を経験する。改めて実質essenceと普遍universelの差を明確にしたい。

モノそのものは実質。実質は真実である故、変化、風化はありえない。ここ、今はモノであり変化しない。モノは即座性 immédiateité として存在する。そのモノが介在を受け自己表現する（他者に見てもらおう）。モノを見るときに介在を通し、悟性が判断する。「今は朝」「ここは家」など。ここで「感じる蓋然」の作用が発動し、悟性は「今は朝」の観察は、それがなされた時点で誤りと知る。もはや朝ではない。朝は過ぎ去った、昼になっているーと修正を入れる。蓋然の精神作用です。

否定され変遷するモノ世界、これが宇宙の「普遍universel」。蓋然の精神作用なくして、悟性は普遍をとらえられない。補強された悟性が普遍を知る（2段ロケットながらブースターを発動したから2段半かもしれない。Hyppoliteはこれをして3段階目＝後述＝と指摘）

## 前出 参考スライド



今回はCertitudeの中  
あらすじ（2段ロケットの最終段）

モノ世界を理解するとは

1 そのものceciの脇に対象（実質）と非実質（悟性）が見えた  
2 モノを見つめる悟性は「感じる蓋然」なる精神作用をはらむ

3 即座を排除し、介在と否定の繰り返しを知覚する  
4 繰り返しを経験（弁証法）という。これがモノの普遍である

« Ce qui ne disparaît pas dans cette expérience, c'est le moi en tant qu'universel, dont le voir n'est ni la vision de l'arbre, ni la vision de cette maison, mais le voir simple, médiatisé par la négation de cette maison, etc. et demeurant cependant simple et indifférent à l'égard de tout ce qui est encore en jeu, la maison, l'arbre, etc. Le moi est seulement universel, comme le maintenant, l'ici ou le ceci, en général » (86頁)

« Ce qui ne disparaît pas dans cette expérience, c'est le moi en tant qu'universel, dont le voir n'est ni la vision de l'arbre, ni la vision de cette maison, mais le voir simple, médiatisé par la négation de cette maison, etc. et demeurant cependant simple et indifférent à l'égard de tout ce qui est encore en jeu, la maison, l'arbre, etc. Le moi est seulement universel, comme le maintenant, l'ici ou le ceci, en général » (86頁)

経験の過程で変わらず一貫している要素は、普遍としての私（悟性）のみである。その視界とは木でも家でもない、単純な「見る」であり、その「見る」は介在として家などを否定するが付加されている。連なる木、家、朝などには無関心のごく単純な「見る」です。私悟性のみが、一般的な「今」「ここ」「これ」と同じにして、普遍です。

部族民：弁証法と「感じる蓋然の付帯する」悟性（le moi）の関係を語る。

悟性はモノを見つめるけれど木、家など視界（vision）の個々の介在の様に拘泥していない。

木を見て視界を回し木から家に移り、木を否定する。変遷を感じ取られるのは、「感じる蓋然」を取り込み、その精神作用を受け、「ここは木であるが正しいのか？今は夜であるも変化するか？」否定が芽生え、

普遍に近づく。

« Je vise bien un moi singulier, mais aussi peu puis-je dire ce que je vise dans le maintenant et l'ici, aussi peu le puis-je dans le moi. En disant ceci, ici, maintenant, ou un être singulier je dis tous les ceci, les ici, les maintenant, les êtres singuliers » (同)

« Je vise bien un moi singulier, mais aussi peu puis-je dire ce que je vise dans le maintenant et l'ici, aussi peu le puis-je dans le moi. En disant ceci, ici, maintenant, ou un être singulier je dis tous les ceci, les ici, les maintenant, les êtres singuliers » (同)

私悟性はとある一つの「個別の私」を正しく見られる。しかし「今」、あるいは「ここ」の中に何があるかについて述べることは難しい。さらに「私」には何が在るのかも言えない。これ、ここ、今、ある個別の存在を述べながら、私はあらゆるこれ、ここ、今、全ての個別の存在を言っているのだ。

部族民：これ、ここ、今などの実質は個別にとどまる。しかし感じる蓋然は一の個別を通して「すべての個別」を語る。それは実質に対しての普遍性である。モノ普遍は肯定、否定の連なる変遷であって、それを個が凝視める。

IIでは悟性のモノの見方を語った。悟性は感じる蓋然を身に抱え込み、即座で見るモノは、実質と介在に分離できるを知る。さらに2段ロケットブースター点火に至り肯定、否定のモノ世界の変遷を、自身の内に取り込む。すなわち経験する。

ヘーゲル 精神現象学  
La Phénoménologie de  
l'Esprit Hyppolite 訳

感じる蓋然  
Certitude Sensible 下の中休  
み 乞う第二部動画

仏語翻訳版から  
解く絶対知の追求

部族民通信 2025年2月